

利根運河周辺エリア

あなたのまちにも?

5か年集計
2016年
～
2021年
(2016.6～2021.12)

コウノトリがやってきた!



コウノトリ(コウノトリ目・コウノトリ科)

- 両翼を開いた長さが200～220cm、立った状態の高さが100～110cmにおよぶ大きな鳥です。全身白色で、羽の一部(風切羽など)が黒色です。くちばしは黒く、まっすぐ・長く、目のまわりと脚が赤っぽい色をしています。
- 高い木の上などに、小枝や草などを運んで直径200cmほどの巣をつくり、春ごろに卵を生みます。
- 水田・河川・湿地などの水辺やその周辺の草地などで、魚類やカエル類、爬虫類、昆虫類などの動物を食べます。

国内希少 野生動植物種 (種の保存法)

国の 特別天然記念物 (文化財保護法)

絶滅危惧IA類 (絶滅の危機にひんしている種 (環境省レッドリスト))

危機 (EN:Endangered) (野生での絶滅リスクが非常に高い (IUCN 世界自然保護連合のレッドリスト))



高い ↑

飛来頻度

低い ↓

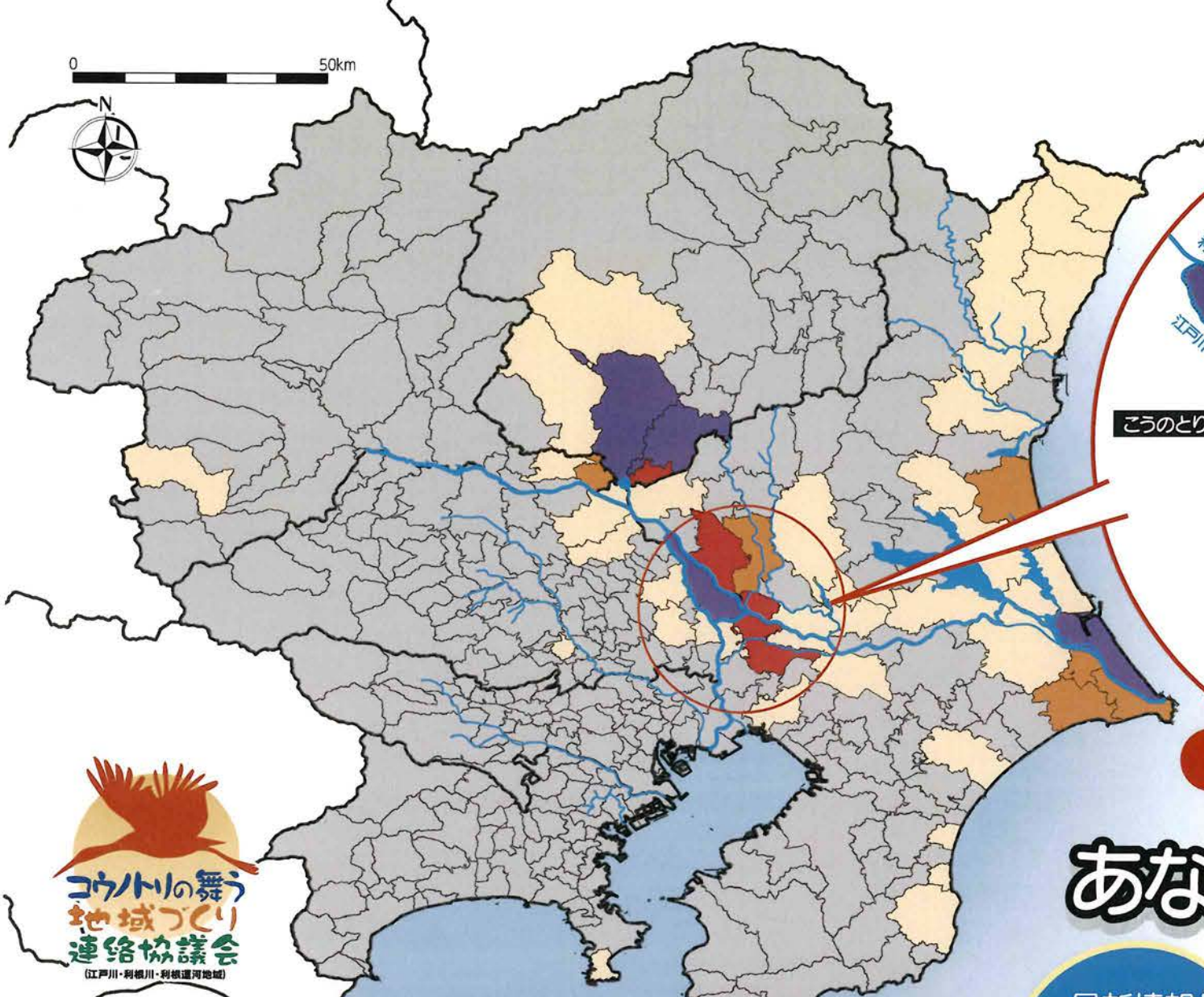
- : 最も頻繁に飛来した市区町村
- : かなり頻繁に飛来した市区町村
- : 頻繁に飛来した市区町村
- : まれに飛来した市区町村
- : ごくまれに飛来した市区町村
- : 今期は飛来しなかった市区町村

※野田市放鳥コウノトリに装着した発信機から、一定時間ごとに送られてくる位置情報を、関東1都6県を対象に整理したものです。
※位置情報が各市町村区内のどこかを示した場合を「飛来した」としてカウントしています(上空を通り過ぎた場合など、動いているものも含まれます)。
※野田市放鳥個体以外のコウノトリは含まれていないこと、一定時間ごとに取得したデータであること、データに一時的な欠測が含まれることから、すべてのコウノトリ飛来情報を表すものではありません。

昭和46年(1971年)、国内野生個体群が絶滅してしまったコウノトリ。もう一度、日本の空に飛ばそうと、平成14年(2002年)に兵庫県で飼育個体の放鳥(野生復帰の取り組み)がはじまり、およそ20年が経ちました。さまざまな人びとの、たくさんの力があって、野外個体数は250羽を超えるまでになっています(2022年1月時点)。

平成27年(2015年)以降、千葉県・栃木県・埼玉県にまたがる利根運河周辺エリア内・野田市「このとりの里」でも野外放鳥が行われるようになり、近年、関東の空にも、自然いっぱいの環境が大好きなコウノトリがみられるようになっています。





利根運河周辺エリア

あなたのまちにも?

最新情報!
2021年
上半期
(2021.1 ~ 2021.6)

コウノトリがやってきた!

- 国内希少野生動植物種 (種の保存法)
- 国の特別天然記念物 (文化財保護法)
- 絶滅危惧IA類 (環境省レッドリスト)
- 危機 (EN:Endangered) (世界自然保護連合のレッドリスト)



コウノトリ (コウノトリ目・コウノトリ科)

- 両翼を開いた長さが200~220cm、立った状態の高さが100~110cmにおよぶ大きな鳥です。全身白色で、羽の一部(風切羽など)が黒色です。くちばしは黒く、まっすぐ・長く、目のまわりと脚が赤っぽい色をしています。
- 高い木の上などに、小枝や草などを運んで直径200cmほどの巣をつくり、春ごろに卵を生みます。
- 水田・河川・湿地などの水辺やその周辺の草地などで、魚類やカエル類、爬虫類、昆虫類などの動物を食べます。



飛来頻度

- 高い ↑
- 最も頻繁に飛来した市区町村
- かなり頻繁に飛来した市区町村
- 頻繁に飛来した市区町村
- まれに飛来した市区町村
- 低い ↓
- 今期は飛来しなかった市区町村

※野田市放鳥コウノトリに装着した発信機から、一定時間ごとに送られてくる位置情報を、関東1都6県を対象に整理したものです。
※位置情報が各市町村区内のどこかを示した場合を「飛来した」としてカウントしています(上空を通り過ぎた場合など、動いているものも含まれます)。
※野田市放鳥個体以外のコウノトリは含まれていないこと、一定時間ごとに取得したデータであること、データに一時的な欠測が含まれることから、すべてのコウノトリ飛来情報を表すものではありません。

昭和46年(1971年)、国内野生個体群が絶滅してしまったコウノトリ。もう一度、日本の空に飛ばそうと、平成14年(2002年)に兵庫県で飼育個体の放鳥(野生復帰の取り組み)がはじまり、およそ20年が経ちました。さまざまな人びとの、たくさんの力があって、野外個体数は250羽を超えるまでになっています(2022年1月時点)。
平成27年(2015年)以降、千葉県・栃木県・埼玉県にまたがる利根運河周辺エリア内・野田市「こうのとりの里」でも野外放鳥が行われるようになり、近年、関東の空にも、自然いっぱい環境が大好きなコウノトリがみられるようになっていきます。



千葉県 野田市 (2021.4.6)



茨城県 坂東市 (2121.5.28)



茨城県 守谷市 (2021.4.7)



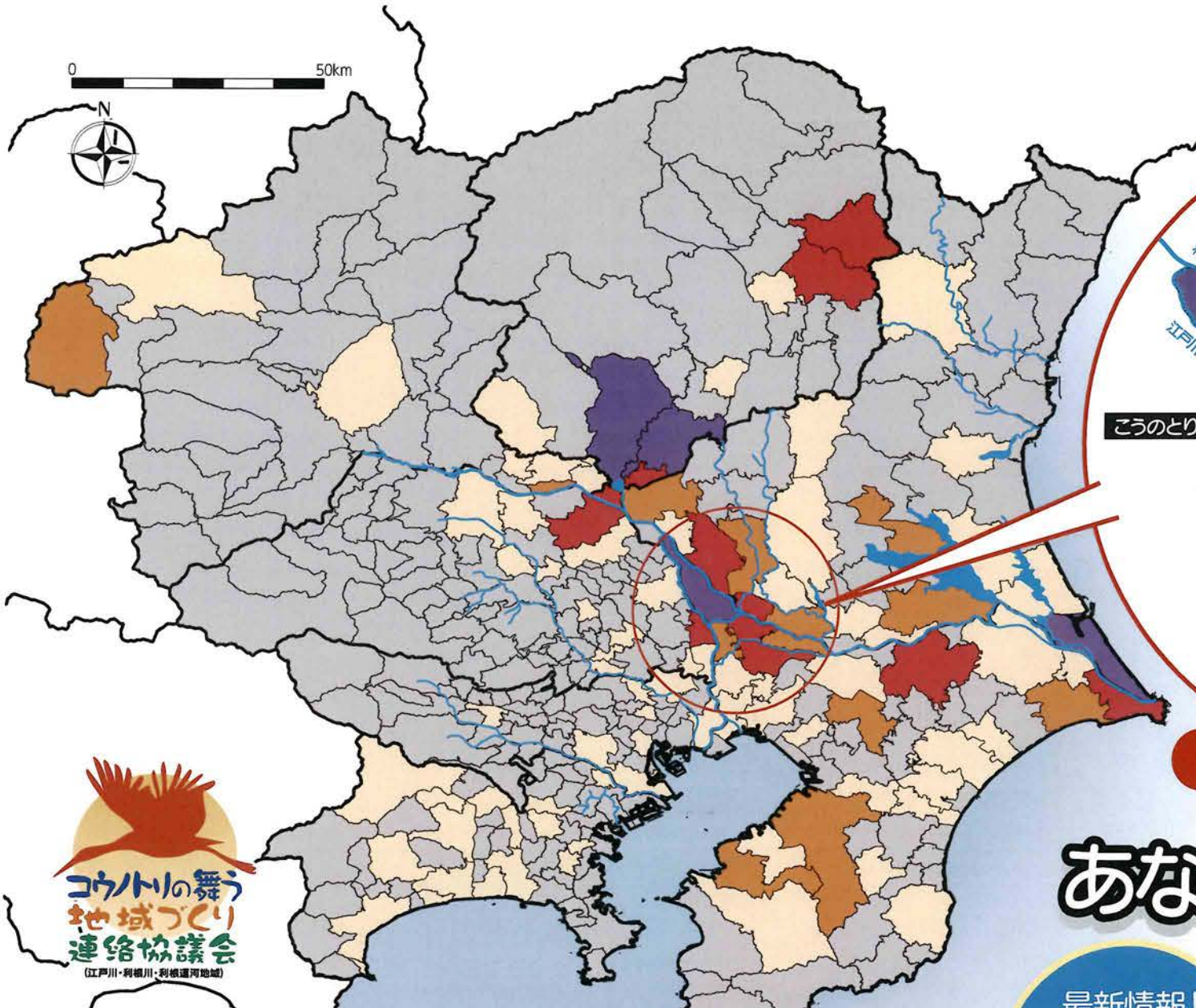
千葉県 野田市 (2021.5.25)



茨城県 守谷市 (2021.4.7)

コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会 (江戸川・利根川・利根運河地域)
事務局：国土交通省江戸川河川事務所・野田市/問合せ：江戸川河川事務所調査課(04-7125-7317)

本連絡協議会は、利根運河周辺エリアにおいて、多様な地域関係者が連携・協力して、エコロジカル・ネットワークの形成、および生物多様性をいかにした地域振興・経済活性化による魅力的な地域づくりを推進することを目指し、平成26年度に設立されました。この資料は、エリア内の情報共有を目的として、取り組みのシンボルであるコウノトリの飛来情報をお知らせするものとして、不定期に配信しているものです。コウノトリを見かけた際は、安心してコウノトリが暮らせるよう、近づかず静かに見守っていただけますようお願いいたします。(なお、許可なく捕まえたり飼ったりすることは、関係法令により禁止されています。)



利根運河周辺エリア

あなたのまちにも?

最新情報!
2021年
下半期
(2021.7~2021.12)

コウノトリがやってきた!

- 国内希少野生動植物種 (種の保存法)
- 国の特別天然記念物 (文化財保護法)
- 絶滅危惧IA類 (絶滅の危機にひんしている種) (環境省レッドリスト)
- 危機 (EN:Endangered) (野生での絶滅リスクが非常に高い種) (IUCN 世界自然保護連合のレッドリスト)



コウノトリ (コウノトリ目・コウノトリ科)

- 両翼を開いた長さが200~220cm、立った状態の高さが100~110cmにおよぶ大きな鳥です。全身白色で、羽の一部(風切羽など)が黒色です。くちばしは黒く、まっすぐ・長く、目のまわりと脚が赤っぽい色をしています。
- 高い木の上などに、小枝や草などを運んで直径200cmほどの巣をつくり、春ごろに卵を生みます。
- 水田・河川・湿地などの水辺やその周辺の草地などで、魚類やカエル類、爬虫類、昆虫類などの動物を食べます。



高い ↑
飛来頻度
低い ↓

- : 最も頻りに飛来した市区町村
- : かなり頻りに飛来した市区町村
- : 頻りに飛来した市区町村
- : まれに飛来した市区町村
- : 今期は飛来しなかった市区町村

※野田市放鳥コウノトリに装着した発信機から、一定時間ごとに送られてくる位置情報を、関東1都6県を対象に整理したものです。
※位置情報が各市町村区内のどこかを示した場合を「飛来した」としてカウントしています(上空を通り過ぎた場合など、動いているものも含まれます)。
※野田市放鳥個体以外のコウノトリは含まれていないこと、一定時間ごとに取得したデータであること、データに一時的な欠測が含まれることから、すべてのコウノトリ飛来情報を表すものではありません。

利根運河周辺エリアの魅力紹介

一級河川の利根川・江戸川・利根運河をはじめ、小河川や湖沼(手賀沼、菅生沼)、遊水地・調節池、水田などの水辺環境が広がる自然豊かな場所で、さまざまな水鳥がみられます。運がよければ、コウノトリやオオタカ、ハクチョウ類など希少な野鳥に出会えることも…。



利根運河周辺エリアでみられる野鳥の例
※確認記録がある野鳥の一例でいつも・かならず見られるものではありません。

昭和46年(1971年)、国内野生個体群が絶滅してしまったコウノトリ。もう一度、日本の空に飛ばそうと、平成14年(2002年)に兵庫県で飼育個体の放鳥(野生復帰の取り組み)がはじまり、およそ20年が経ちました。さまざまな人びとの、たくさんの力があって、野外個体数は250羽を超えるまでになっています(2022年1月時点)。
平成27年(2015年)以降、千葉県・栃木県・埼玉県にまたがる利根運河周辺エリア内・野田市「こうのとりの里」でも野外放鳥が行われるようになり、近年、関東の空にも、自然いっぱい環境が大好きなコウノトリがみられるようになっています。



コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域)
事務局: 国土交通省江戸川河川事務所・野田市/問合せ: 江戸川河川事務所調査課(04-7125-7317)

本連絡協議会は、利根運河周辺エリアにおいて、多様な地域関係者が連携・協力して、エコロジカル・ネットワークの形成、および生物多様性をいかにした地域振興・経済活性化による魅力的な地域づくりを推進することを目指し、平成26年度に設立されました。この資料は、エリア内の情報共有を目的として、取り組みのシンボルであるコウノトリの飛来情報をお知らせするものとして、不定期に配信しているものです。コウノトリを見かけた際は、安心してコウノトリが暮らせるよう、近づかず静かに見守っていただけますようお願いいたします。(なお、許可なく捕まったり飼ったりすることは、関係法令により禁止されています。)

コウノトリってこんな鳥

●絶滅の恐れのある希少な鳥です

- 日本から中国・台湾・韓国・ロシアの一部に分布しており、各国を行き来することもあります。世界的にみても数が少なく、絶滅が危惧されている希少な鳥です。
- 国の特別天然記念物などに指定されています。許可なく、捕ったり・飼ったりすることは法律で禁止されています。
- 江戸時代の絵画に描かれたり、地名に受け継がれる（鴻や鶴のつく地名の由来との説もある）など、関東地方でも古くから人びとに親しまれてきたと考えられます。

●野生復帰の取り組みが進んでいます

- 明治以降、乱獲や生息環境の変化などによって激減し、昭和46年(1971年)の記録を最後に日本国内のコウノトリ野生個体を姿を消しました。
- 最後の生息地となった兵庫県豊岡市では、人工的な飼育・繁殖の研究が進められ、コウノトリ野生復帰に向けた放鳥が行われています。現在、国内の野生個体は200羽以上となっており、野外での自然繁殖もみられるようになりました。
- 平成27年(2015年)より、千葉県野田市でも飼育個体の放鳥を行っており、関東地方の空にもコウノトリがみられるようになりました。令和2年(2020年)には、栃木県小山市(渡良瀬遊水地)で、野外繁殖が確認されています。

国内希少
野生動植物種
(種の保存法)

国の
特別天然記念物
(文化財保護法)

絶滅危惧IA類
絶滅の危機にひんしている種
(環境省のレッドリスト)

危機 (EN:Endangered)
野生での絶滅リスクが非常に高い
IUCN
(世界自然保護連合の)
レッドリスト



- 立った状態で高さ100~110cmほど、翼を開いた長さは200cmにおよぶ大きな鳥です。全身白色で、羽の一部が黒色です。くちばしは黒く・まっすぐ・長く、目のまわりと脚が赤っぽい色をしています。
- 高い木の上などに、小枝や草などを運んで直径2mほどの巣をつくり、3~4月ごろに卵を生み、子育てはオスとメスが共同で行います。産卵から1カ月ほどで孵化し、ヒナはおよそ2カ月程度で巣立ちます。
- 水田・河川・湿地などの水辺やその周辺の草地などで、魚類やカエル類、爬虫類、昆虫類などの動物を食べます。

自然豊かな水辺のネットワークがコウノトリの生活を支えます。

これらの環境がつながっている・たくさんある・ちかくにあることで、さまざまな水辺の生物が生息・生育できるようになります。



コウノトリは動物食で、おもに水田・湿地・河川などの水深の浅い場所で魚類やカエル類・昆虫類などを、草丈の低い草地でバッタ類や爬虫類などを食べています。成鳥1羽で1日あたり500グラムほど(飼育下)を食べるため、親鳥とヒナたちがいっしょに過ごす繁殖期には、多くのエサ資源が必要になります。田んぼに水が入っていない時期には川や湿地に移動したり、バッタなどがたくさんいる時期には草地に移動したりと、エサを確保するためさまざまな環境を利用しています。また、ねぐらや営巣場所として、樹林地も利用しており、コウノトリが暮らしていくためには、周辺にさまざまな環境が整っている必要があります。

コウノトリも暮らしていける生物豊かな水辺環境を保つためには、魚類が繁殖したり、カエル類が成長できるよう、川や湿地や田んぼなどの水域が空間的かつ時間的につながっていることが重要です。コウノトリのすみ場所を守ることは、生きものの豊かな場所とそのつながりや広がりを守ること(エコロジカル・ネットワークの形成)といえます。



江戸川と利根川を結ぶ船の道として、明治23年に開削された「利根運河」は、河川としての役割を終えた現在、歴史的な産業遺産であるとともに、さまざまな水辺生物の生息・生育場や人びとの憩いの場となっています。千葉県・埼玉県・茨城県内の各市町を含む利根運河を中心としたエリアは、河川・湖沼・水田等の水辺環境が広がる自然豊かな地域です。

「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域)」は、この利根運河周辺エリアにおいて、多様な地域関係者が連携・協力して水辺環境の保全・再生を図り、エコロジカル・ネットワークの形成を推進するとともに、生物多様性の向上を地域振興・経済活性化へとつなげ、「多様な生物と共生する魅力的な地域づくり」を実現することを目指して平成26年(2014年)に設立されました。



利根運河周辺エリア紹介

自然を満喫できる場所がたくさんあります!



千葉県・埼玉県・茨城県の各市町を含む、利根運河を中心としたエリアは、一級河川の利根川・江戸川・利根運河をはじめ、大小の河川や湖沼、水田等の水辺環境が広がる自然豊かな地域です。都心部からのアクセスもよく、野鳥観察や自然・農業体験ができる環境や施設、歴史を身近に感じられる史跡や資料館などが各所にあります。野鳥が観察できるスポットもいくつかあり、運がよければ、コウノトリやオオタカなどが飛ぶ姿がみられるかも。ぜひ、遊びに来てください。



1 運河水辺公園 運河駅下車すぐ。利根運河について学べる「利根運河交流館」もすぐそばです(流山市東深井)



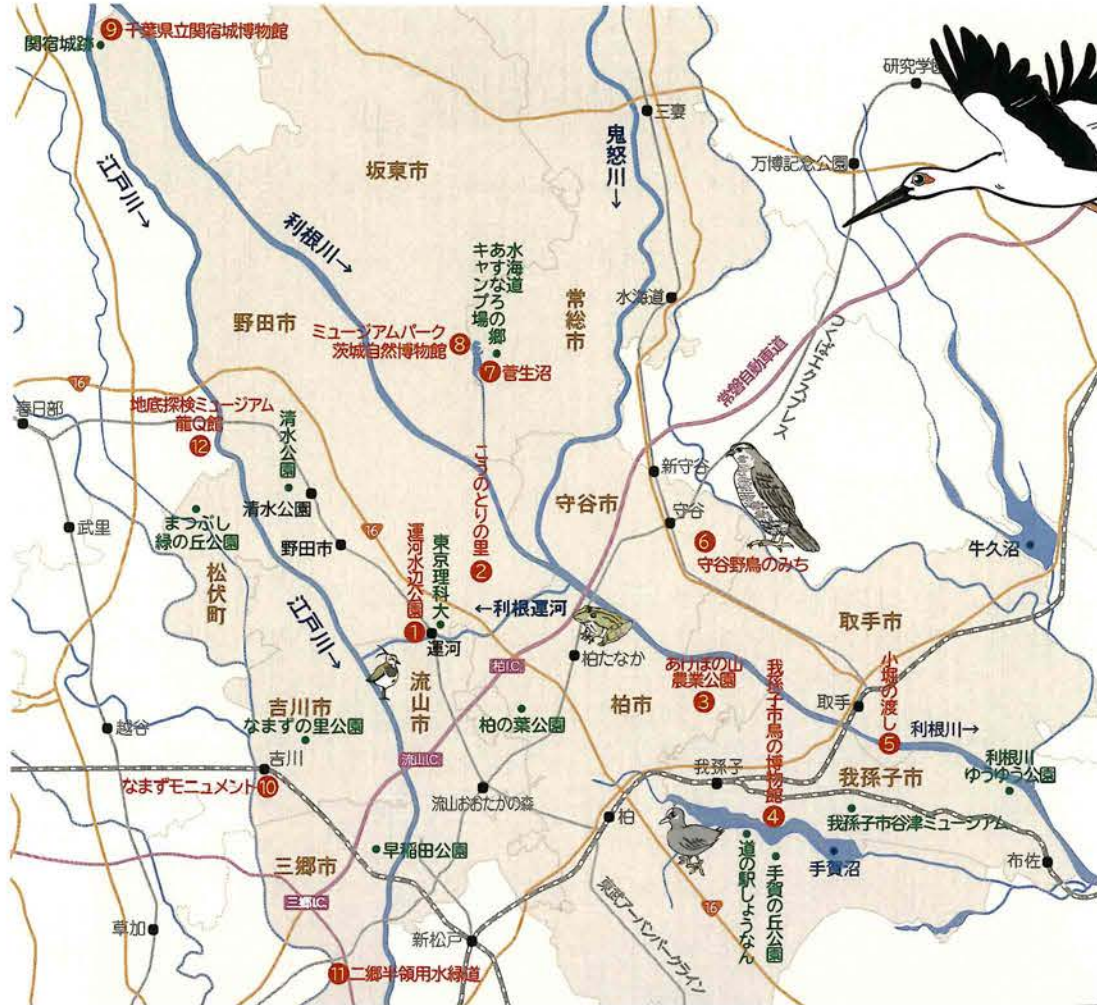
2 こうのとりノ里 コウノトリ飼育施設。運がよければ周辺を飛ぶコウノトリがみられることもあります(野田市三ツ堀)



3 あけぼの山農業公園 風車と四季の花々がみどころ。農業を元気にする活動も実施されています(柏市布施)



4 我孫子市鳥の博物館 日本唯一の鳥専門の博物館。目の前の手賀沼で野鳥観察も楽しめます(我孫子市高野山)



エコロジカル・ネットワーク形成の推進による 利根運河周辺エリアにおける 多様な生物と共生する地域づくり 取り組みレポート 2020

(第1期 2016~2020年 取り組み総括レポート)



5 小堀の渡し 現在ではめずらしい渡船。大正時代から受け継がれ、現在も取手市営で運航されています(取手市小堀)



6 守谷野鳥のみち 林間の「守谷野鳥の森散策路」と湿地草原「鳥のみち」を含む市民手づくりの約4kmの歩道(守谷市本町)



7 菅生沼 越冬に訪れるコハクチョウやカモ類をはじめ、さまざまな水鳥が観察できます(坂東市・常総市)



8 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 マンモスの化石がお出迎え。展示は宇宙の進化から身近な自然までボリュームいっぱい(坂東市大崎)



9 千葉県立関宿城博物館 利根川・江戸川の河川改修や水運、川と関わる歴史・産業等が学べます(野田市関宿三軒家)



10 なまずモニュメント ナマズ養殖も行われる「なまずの里よしかわ」。吉川駅前では金色のナマズがお出迎え(吉川市木売)



11 二郷半領用水緑道 サクラやツツジが美しい三郷放水路以南1.6kmの道。新日本歩道紀行「水辺の道100選」認定(三郷市栄)



12 地底探検ミュージアム龍Q館 洪水から人々を守る首都圏外郭放水路について学べる博物館。地下見学は別途申込制(春日部市上金輪)

※ 各施設等の運営状況(休業日・運営時間・料金・人数制限・駐車場等)はそれぞれの公式ホームページなどで調べてからお出かけください。2021年3月現在、感染症拡大予防対策等により、運営日・運営時間の変更、立ち入りの制限、また閉鎖される場合も想定されます。また、コウノトリなど野生生物は時期やその他の状況によりみられないこともあります。
※ 写真提供(50音順): 取手市、守谷市、三郷市、ミュージアムパーク茨城県自然博物館

コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域)
事務局: 国土交通省江戸川河川事務所・野田市 / 問合せ: 江戸川河川事務所調査課 (04-7125-7317)



利根運河周辺エリアにおけるコウノトリの舞う地域づくりの取り組み

～これまでとこれから～

「利根運河」は、江戸川と利根川を結ぶ船の道として、明治23年に開削された人工河川です。運河としての役割を終え、現在は、歴史的な産業遺産であるとともに、さまざまな水辺生物の生息・生育場や人びとの憩いの場となっています。

千葉県・埼玉県・茨城県内の各市町を含む利根運河を中心としたエリアは、河川・湖沼・水田等の水辺環境が広がる自然豊かな地域です。

この利根運河周辺エリアにおいて、多様な地域関係者が連携・協力して水辺環境の保全・再生を図り、エコロジカル・ネットワークの形成を推進するとともに、生物多様性の向上を地域振興・経済活性化へとつなげ、「多様な生物と共生する魅力的な地域づくり」を実現することを目指し、平成26年(2014年)に「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域)」を設立しました。

本資料では、2020年の節目の年にあたって、これまでの取り組みを振り返るとともに、今後の展望をとりまとめました。



取り組みテーマ① 多様な生物がすみ 定着地づくり

●水田の動物量調査の手引きの公開

- ◎田んぼの動物の豊かさとともに、コウノトリ採餌環境ポテンシャルを調べることでできる調査手法をとりまとめました。
- ◎専門家の監修のもと、地域関係者と協働(調査水田の使用許可、モニター調査への参加等)で作成し、一般公開しています。

●田んぼや川の生きもの調査体験会の開催

- ◎手引きを活用し、野田市・柏市・流山市各地において、調査の講習会や田んぼや川の生きもの調査体験会を開催しました。
- ◎これまで、のべ約200名の地域住民、市民団体、行政関係者、研究者等に参加いただきました。



◎**主な成果** 河川・農地・里山林における環境保全の取り組みが地域関係者により各地で推進されるなか、連絡協議会では調査の手引きの公開や調査体験会の開催を通じて“田んぼの生きもの”の豊かさを地域に伝えることができました。

▶**これから** 対象エリアや対象者を広げながら、この調査体験を継続するなどし、河川や農地等における保全・再生の取り組みが促進されることを目指します。



取り組みテーマ② 多様な生物を育む 人・地域づくり

●自然豊かな地域づくりの広報

- ◎取り組み広報用資料(ポスターや学習教材など)を作成し、地域関係者と連携し、エリア内の施設や行事で展示・配布しました。
- ◎また、地域の魅力PRのため、モニターツアーへの参加・協力なども行いました。

●情報の発信・共有

- ◎連絡協議会では、地域関係者の取り組み紹介や、取り組み支援(助成制度等)に関する情報提供などを行いました。

◎**主な成果** 豊かな自然を活かした行事開催等の取り組みが地域関係者により各所で推進されるなか、連絡協議会では、取り組みの広報によって、取り組みそのものや、生きもの豊かなエリアであることについて、認知度の向上を図ることができました。

▶**これから** 対象エリアや対象者を広げながら、取り組みの広報を継続するとともに、今後、取り組みの成果を地域振興(観光・商業)につなげる工夫についても検討していきます。



エリア内の各地域における取り組み(事例)

～それぞれの活動がエリア内のエコロジカル・ネットワーク形成を推進しています～

地域のエコロジカル・ネットワークは、各拠点で実施される取り組みがつながり、影響しあって形成されていきます。利根運河周辺エリアでは、研究者・民間団体・自治体等の地域関係者によって、環境の保全・再生等に関するさまざまな活動が進められています。

●コウノトリをシンボルとした自然再生(野田市)

江川地区の谷津田において、耕作放棄地の一部を整備(復田やピオトープ化等)し、自然環境に配慮した水稲生産を行い、地域の体験学習の場として活用しながら、次世代に受け継ぐ取り組みを進めています。

●市民連携による生物多様性モニタリング(流山市)

利根運河や周辺谷津を含む市内数か所において、市民連携による生物調査を継続して実施しています。また、生物多様性シンポジウムを開催するなど、市民の自然学習の場づくりも進めています。

●市民連携による樹林地や谷津環境の保全(柏市)

「柏市谷津保全指針」を策定し、土地所有者・市民等・行政の協定締結による谷津環境の保全推進を図っています。また、空き地などオープンスペースを活用したカシニワ制度を通じた樹林地の保護を進めています。

●湿地環境に配慮した河道掘削(江戸川河川事務所)

環境に配慮した治水事業が進められています。江戸川では、河道掘削時に湿地環境を創出し、さまざまな水辺生物(ニホンアカガエルやカワセミ等)を確認しました。



市民農園における営巣体験(野田市江川地区) ニホンアカガエルの調査(流山市生物多様性モニタリング) 大青田地区の谷津景観(柏市谷津保全指針対象地区)

取り組みテーマ③ コウノトリの舞う たね地づくり

●コウノトリの飼育・放鳥(野田市の取り組み)

- ◎野田市では、専門家等と協力しながら、コウノトリ野生復帰の取り組みを進めています。
- ◎平成27年から継続して飼育個体の放鳥を行っており、近年、関東エリア内に放鳥個体を含めた複数のコウノトリが飛来(右参照:渡良瀬遊水地では野外繁殖)するようになりました。

▶**これから** 今後、利根運河周辺エリアにコウノトリが増え、定着する可能性も想定し、必要な対策(エリア内で共有すべき留意点等の整理・配信など)を検討していきます。

取り組みのシンボル(大型鳥類)

エリア内では野田市放鳥個体を含めたコウノトリの飛来、また、オオタカやサシバの営巣、コハクチョウの越冬などが多数確認されています。

これら食物連鎖の頂点にある大型鳥類を指標とし、エリア内にそれらを育む多様な生物がすみ、そこから受ける生態系サービスを広く地域関係者と共有できることを目指しています。

指標種であるコウノトリは、2020年、渡良瀬遊水地(栃木県小山市)において、関東では野生絶滅以来初記録となる野外繁殖が確認されました。



渡良瀬遊水地で子育て中のコウノトリ(2020.7.24)

コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会の組織

～広域連携による関東地域における取り組みの推進～

かつてコウノトリの重要な生息場であった関東地域において、コウノトリ・トキを指標とし、広域連携による水と緑のネットワーク形成によって、にぎわいのある地域づくりを推進すべく、平成25年に「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」が設立され、関東各地(渡良瀬遊水地や荒川上流など)でエリア協議会が設立されています。

本連絡協議会は、このうち利根運河周辺エリアの取り組み推進を担い、市民・研究者・行政機関等の地域関係者の参加のもと、エコロジカル・ネットワーク形成に関する情報の共有・発信、協働・連携促進を図っています。

- 組織: コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会(江戸川・利根川・利根運河地域)
- 設立: 平成26年度(平成27年1月)
- 構成(2020年12月時点)

【学識者(氏名50音順)】

- 埼玉大学名誉教授: 浅枝 隆
- 東邦大学理学部 教授: 長谷川 雅美〔委員長〕
- 公益財団法人日本鳥類保護連盟 評議員: 葉山 嘉一
- 【市民団体(団体名50音順)】
- 江戸川の自然環境を考える会
- かしわ環境ステーション
- NPOさとやま
- 東葛自然と文化研究所
- 野田自然保護連合会

【行政機関】

- 野田市 ●柏市 ●流山市
- 千葉県 河川環境課、東葛師土木事務所、柏土木事務所
- 千葉県 農地・農村振興課、自然保護課
- 農林水産省 関東農政局 農村環境課
- 国土交通省 関東地方整備局 河川環境課、利根川上流河川事務所、江戸川河川事務所
- 【オブザーバー】
- 我孫子市、常総市、坂東市、守谷市、取手市、吉川市、三郷市、松伏町

